

国有林に対する意識調査

坂下・川上担当区事務所 ○森 孝之
川上治山事業所 白子 和広

要旨

林業活動 森林レクリエーションを始めとする営林署の業務や国有林について、地元住民やレク森利用者等は、どのような見方をしているのかを知り、業務の推進に資するため、岐阜県恵那郡川上村において、村民及び夕森キャンプ場利用者を対象として、アンケート調査を行い考察したものである。

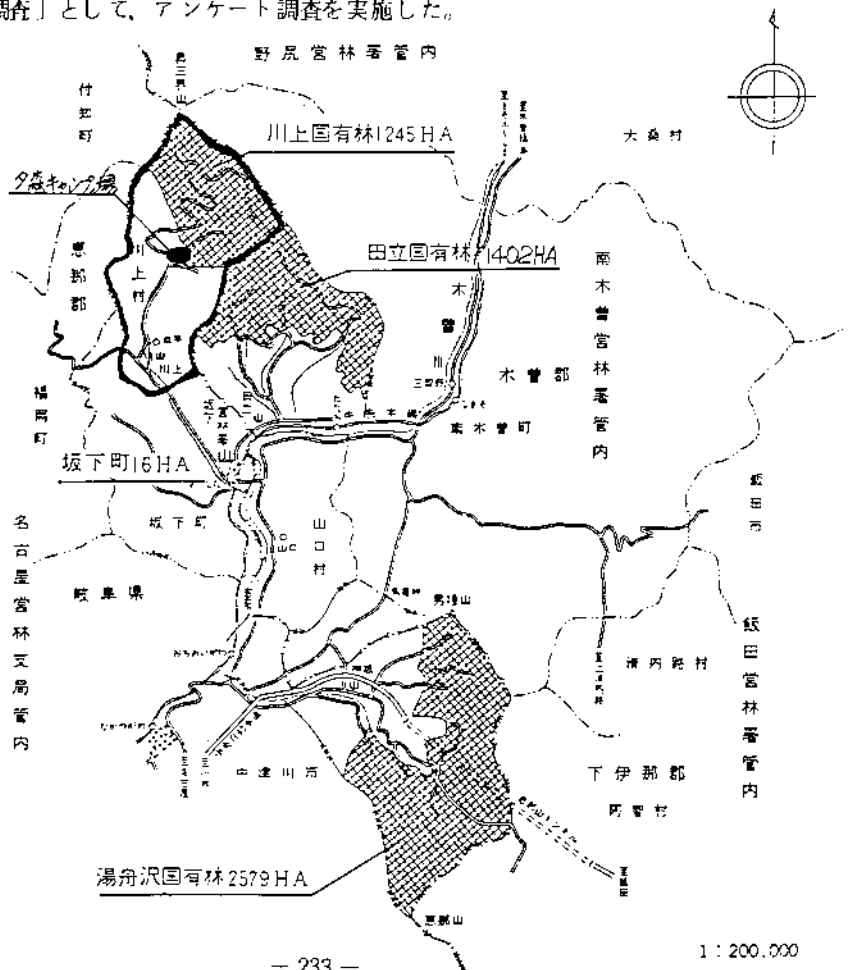
はじめに

近年森林・林業に対しては木材生産に加えて、国土保全、水資源、自然環境の保全、保健休養の場の提供など、森林の有する多面的機能の高度発揮に対する関心及び要請が高まっている。また国有林への入込者も森林レクなどを中心に増大が予想される。地域の声・要望の多様化を敏感に把握し、レク森利用者等の声、国有林に期待するものへの配慮に一層努めながら業務の運営に当たらなければならなくなってきている。

そこで、これらの声の一端を直接知るため川上村の村民と、同村村営の夕森キャンプ場利用者に「国有林に対する意識調査」として、アンケート調査を実施した。

1 調査地の概要

図-1 位置図



川上村は岐阜県の最東部、長野県境に位置し、面積約3,000ha、内森林面積2,700haと90%を占め、人口1,000人、戸数260戸の山村である。

また村営夕森キャンプ場は、同村北部裏木曾県立公園内の国有林境に位置し、国有林内の野外スポーツ林、村有林を合わせて面積9haバンガロー・キャビン等100棟を配し、収容人員1,000人の規模をもち、年間利用者数は延14万人にのぼるキャンプ場である。

II 調査方法及び経過

1. 対象

高校生（16歳）以上の川上村村民（以下村内）、及び夕森キャンプ場利用者（以下夕森）として、村内人口の1割100人を目安に夕森においても同数の100人で、合計（以下全体）200人の回答を得ることを目標とした。

2. 実施方法

調査に当たり村役場の協力を得て、夕森の案内所にアンケート箱を置き、配布回収を行うとともに、バンガロー等を個別にまわり協力をお願いした。

村内では役場等の応援を得て、配布回収を行った。

3. 回収結果

回収状況は表-1のとおりである。

表 1 国有林に対する意識調査

調査方法	アンケート			
	夕森キャンプ場利用者	川上村村民	全体	
配付数	183部	130部	313部	
有効回答数	115部	102部	217部	
回収率	62.8%	78.5%	69.3%	
性別	男性	70人	53人	123人
	女性	44人	46人	90人
	不明	1人	3人	4人
調査期間	自 昭和62年8月 7日 至 昭和62年8月31日	自昭和62年12月 7日 至昭和62年12月26日		

◆ 年齢構成

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60上	不明	計
夕森	6	40	47	18	0	1		115
村内	0	16	18	18	33	8		102
計	6	56	65	36	33	9		217

◆ キャンプ場利用者県別内訳

岐阜	愛知	神奈川	不明	計
15	91	4	5	115

(1) 調査期間は夕森では利用者の多い8月、村内は12月に行った。

(2) 回収率は全体で69.3%となった。

- (3) 年齢構成は夕森20～30代、村内では50代が主体となった。
- (4) 夕森の県別内訳は愛知等中京圏が主体であり、都市部の人意見とみなすことができる。

4. 中間発表

11月7日から9日にかけて、川上村等の主催による文化祭の中で、夕森での集計を中間集計として川上国有林内の治山施設の状況とともに展示し村内の多くの人に紹介した。

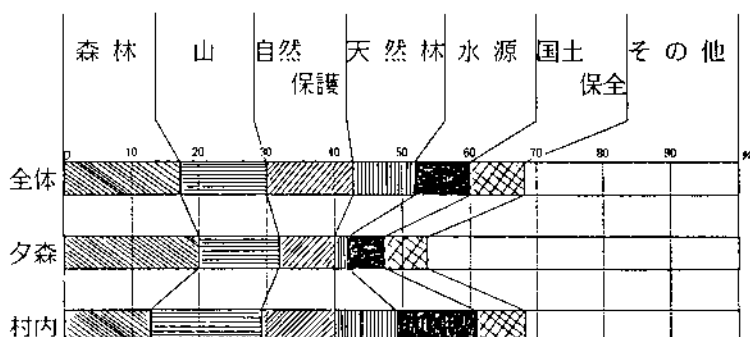
Ⅲ 調査結果

設問は解説等も含め15項目以上にわたり、設問ごとに考察した。主な項目及び考察は次の通りである。

1. 国有林のイメージ

表ー2 「国有林」からイメージされるものは？

1 山	2 森林	3 高原	4 木
5 水源	6 伐採	7 植えつけ	8 人工林
9 天然林	10 自然保護	11 林道	12 治山
13 自然休養林	14 国土保全	15 景勝地	16 その他



夕森では森林・山・自然保護、また村内は山・森林・水源の順となった。川上村では簡易水道の水源を国有林に求めていることから水源の回答が多くなったものと考えられる。

全体では森林・山というイメージを持つとともに、これに関連する天然林と回答した人が9%に対し人工林は2%と少なく、国有林のイメージは森林・山、それも天然林としてのとらえ方が強い。また自然保護、水源、国土保全など公益的機能のイメージを持っている人が4人に1人となっている。

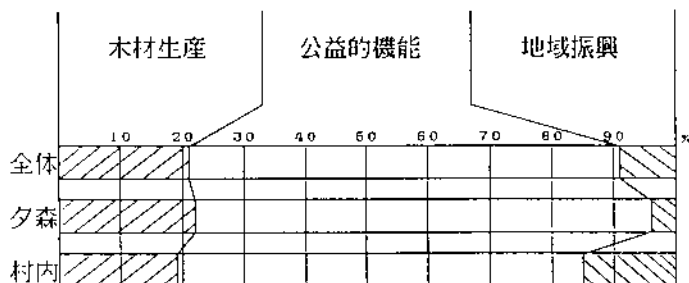
2. 国有林の使命

木材生産が21%公益的機能が70%地域振興が9%と公益的機能の発揮が重要としている回答が圧倒的に多い。

村内では地域振興は木材生産、保健休養の場を通じての振興が大切と考えられている。

表-3 国有林は下記の三つが使命とされています、最も重要と思われるものは？

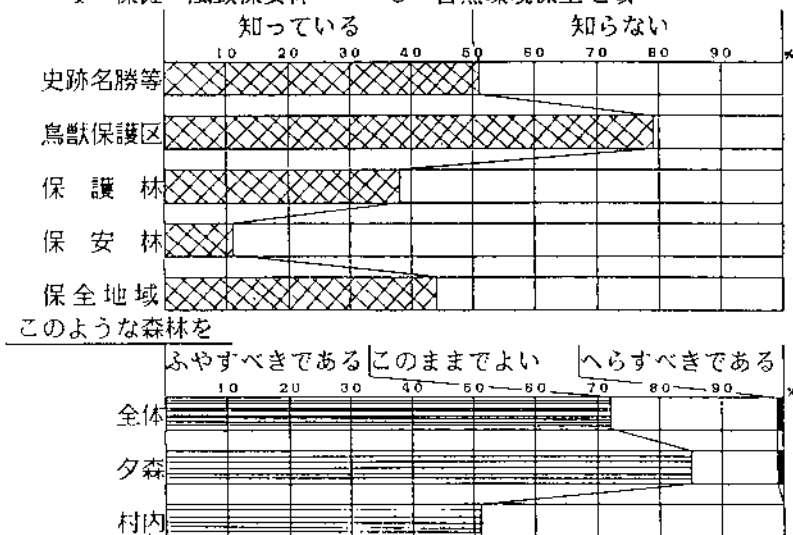
- 1 国民生活に欠かせない木材を長期にわたって計画的・持続的に供給する。
- 2 国土を守り、水を供給し、保健休養の場を提供するなど、森林の持つ公益的な機能を十分に発揮させる。
- 3 国有林の近くに住む人々の生活がより豊かになるように努め、地域の発展に寄与する。



3. 自然保護

表-4 国有林では法令などによる制約により自然保護等との調和をはかっていますが下記の「指定保護」で知っているものは？

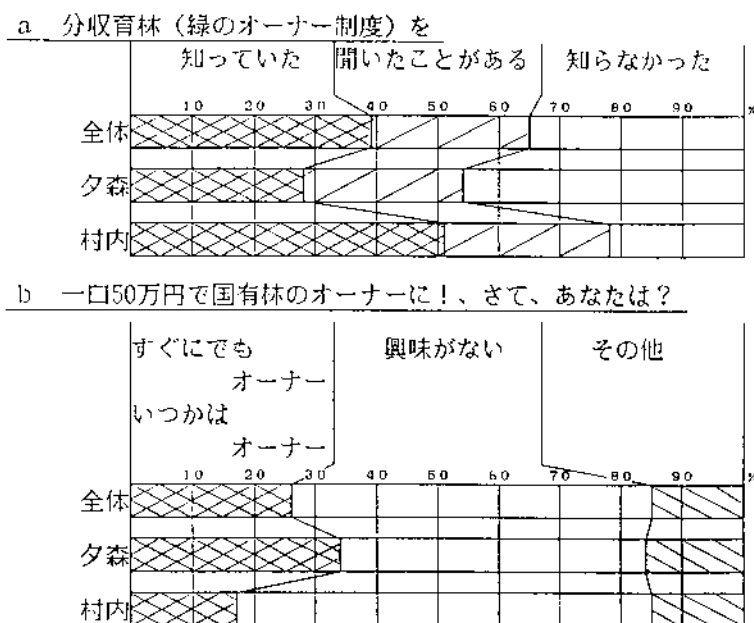
- 1 史跡名勝・天然記念物
- 2 鳥獣保護区
- 3 保護林
- 4 保健・風致保安林
- 5 自然環境保全地域



昨今、知床などの保護問題が新聞等で話題になるなど関心が寄せられている。そこで国有林で行われている自然保護等との調和を図っている指定・保護はどのように理解されているのか、これらの知名度について設問した結果、全体では鳥獣保護区が、79%と高かったほかは、半数もしくはそれ以上に知られていないことがわかった。このような森林をふやすべきと答えた人が、夕森で85%を占めたのに対し、村内ではふやすべき、このままでよいが約半々となり考え方の違いがうかがえる。

4. 分収育林

表-5 国有林では分収育林（緑のオーナー制度）が行われています。



昭和59年度から分収育林が行われて4年になり、広報活動の成果がどのように現われているかを設問した結果、知っていた聞いたことがある人が全体で65%、村内では79%と高い反面、オーナーになってみたいとなると全体で26%村内で17%と少く、知っている割にはオーナーの希望が少ないという傾向が、村内においてはより顕著であった。

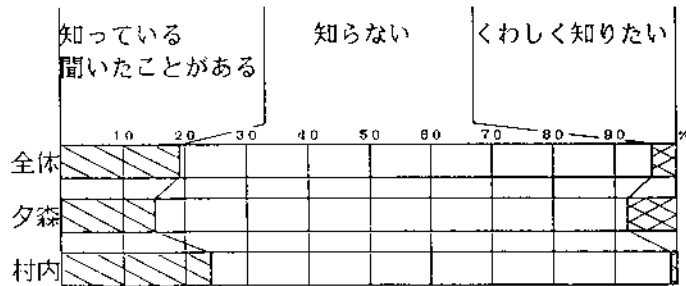
坂下営林署では、こうした人達への販路の拡大が課題となっており、この調査結果からして、PRに工夫が必要であることを感じた。

5. ふれあいの郷

今年度のふれあいの郷を知っている人は、全体で19%にとどまる結果であった。しかし夕森で8%の人がくわしく知りたいと回答したことから、北白樺高原の広報活動は首都圏が主体ということであるが、中京圏へもPRし、このような人達の掘り起しも必要である。

表-6 長野宮林局では「北白樺高原ふれあいの郷」を募集しています。

- 1 知っている。 2 聞いたことがある。
3 知らない。 4 くわしく知りたい。



6. 森林浴

表-7 「森林浴」とは、森林に入り森林に接し、
心身ともに自然の恵みを受けることを言います。

- 1 森林浴をしたことがある。 2 森林浴をしてみたいと思う。
3 興味がない。 4 知らなかった。



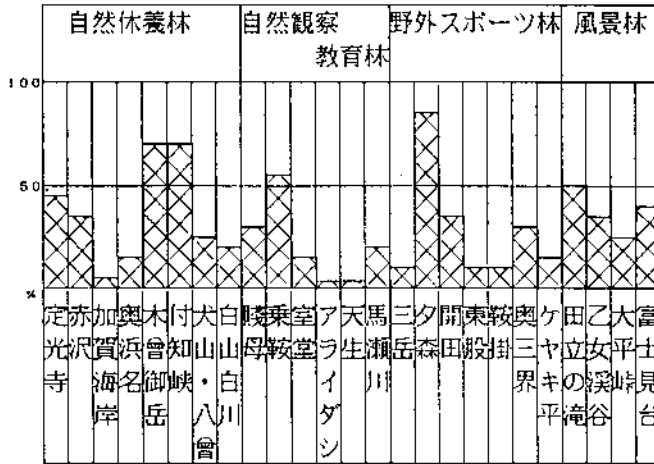
昭和57年から、自然とのふれあいとして森林浴が提唱されていることから、森林浴をした・してみたいと思っている人が80%あり、森林浴をした感想では「さわやか」「心が安らぐ」など好評で関心の高いことがわかった。

7. レクリエーションの森

表7での好評かつ高い関心を示した森林浴も、国有林で森林浴のできる施設、レク森の知名度を設問したところ、表-8の通り、自然休養林で平均36%、その他は20~30%となり意外と低い結果である。

表-8 国有林には「レクリエーションの森」として下記のものがあります。
行かれたこと、聞かれたことがありますか。

- a 自然休養林 (92カ所)
- b 自然観察教育林 (165カ所)
- c 野外スポーツ林 (208カ所)
- d 風景林 (555カ所)



8. キャンプ及びレクリエーション

表-9 キャンプ場を選ぶとき、どのような点から選びますか？



キャンプ場を選ぶ時の目安としているものを夕森で、また野外でのスポーツ等を夕森で村内に設問したところ、表-9のとおりである。レク森施設等の設置には約3時間の交通距離で、溪流、湖沼が近くにある美しい林のある場所、大人、子供が共通して利用できる施設があり、その施設にはスキー、ハイキング、釣り、山菜採り等が良いという見方であることがわかった。

IV まとめ

1. PR活動の推進

森林浴では約40%の人がしてみたいと答えながら、森林浴の発祥地赤沢を含め、レク森の知名度は30%と低く、森林浴をしてみたくても場所がわからないという状況である。また国有林で行われている自然保護等との調和を図る指定・保護の内容は難かしく思われ、いわゆる「とっつきにくい」ためにあまり知られていないことも多いと考えられる。

林業用語に関する設問においての、地ごしらえ、択伐、複層林などの用語も「とっつきにくい」ためか低い割合を示している。

森林教室や植付などの体験が全くないという人が、夕森においては115人中80人あり、このような行事、作業の体験の場や意見交換の場を増すなど、営林署の業務を開かれたものにすることが重要と思われる。

2. 営林署イメージの改善

「営林署はかたい」・「接しにくい」という意見があることから営林署業務を開かれたものにするのと同時に、地域や利用者とのふれあいを積極的に行い、身近かな営林署というイメージの改善に努めなければならない。

3. きめ細かな森林施業

公益的機能への関心、国有林の森林・山から天然林といったイメージ、また分収育林、レク林などのPR、森林浴への高い要望など、いろいろな要素を考えながら人々と接していかなければならない。このような多くの機能を発揮させるためにも、自然条件をも含めきめ細かな森林施業に心がけ、国有林の使命である木材の供給、公益的機能の増進、地域振興への寄与をバランス良く達成できるよう一層の努力が必要である。

おわりに

国有林に期待されている役割の重要性を十分認識し、このような調査を基に地域とのつながりをさらに強めたい。キャンプ場利用者に協力をお願いして歩いたとき「毎日ごくろうさま、頑張ってください」などの励ましのことは、あるいは意見の中で「このアンケートで初めて知った」・「おぼろげながら国有林がわかった」といった意見の意味を忘れないよう、得られた一人一人の声を大切にして国民の山としての国有林になるよう、一層努力したい。

最後に川上村を始めとして、この調査に御協力いただいた方がたに御礼申し上げます。